

Strix 9: 237-238 (1990)

伊豆諸島におけるツバメ *Hirundo rustica* およびコシアカツバメ *H. daurica* の繁殖記録長谷川雅美¹

伊豆諸島におけるツバメ類の繁殖記録は、1970年代前半における三宅島、八丈島、青ヶ島の3島からの記録以外に確実な報告はみあたらない(樋口 1973)。筆者はこれまで記録のなかった北部伊豆諸島で、ツバメとコシアカツバメの営巣を確認したので、ここに報告したい。

筆者は、爬虫類の生態調査を目的として、1977年以後伊豆諸島を訪れてきた。ここでの報告の主な対象である神津島では、1981年から1990年まで(1985年を除く)、ほぼ毎年調査を行ってきた。ツバメ類の存在が気にとまるようになったのは、1984年以後のことである。この年6月には、神津沢脇の人家(モルタル外装)の軒にツバメの巣を1つ確認した。1986年と1987年には、5月と8月に島を訪れ、ツバメを確認した。1986年の8月10日には、1984年とは別の場所に巣を確認した。すでに繁殖は終了していたらしく、ヒナはみあたらなかった。さらに1989年には、村落中央部の商店の軒下に2巣を確認した。1990年の6月22日に、前年ツバメの巣があった商店の軒先に見慣れぬ巣がつくられているのに気がついた。その場で待っているとコシアカツバメの成鳥が巣の中に入っていくのが観察されたが、ヒナはみあたらなかった。約1か月後の7月24日に再度観察したところ、巣の出入り口からかなり成長したヒナが体をのぞかせており、コシアカツバメの親鳥がさかんに給餌していた。ヒナは少なくとも4羽同時にみることができた。その後村落を道路に沿って探したところ、育雛中のツバメの巣を2つ確認することができた。ヒナは数は3羽が1例で、もう1つの巣では5羽までみえたが、それ以上は確認できなかった。

コシアカツバメの巣はドームを逆さにして軒下に張りつけたような状態につくられており、この種の典型的な形状をしていた。しかし、巣を構成する土の状態から、この巣はツバメの巣を土台としてつくられたものであることが推察された。

神津島以外では、伊豆大島と新島でツバメの営巣を記録した。伊豆大島では、1990年7月2日に元町の東海汽船の待合所の天井で育雛中の巣を確認した。新島では、1990年7月19日に北部の若郷集落で民宿の軒下につくられた巣を2つ確認した。ヒナはすでに巣立っていた。

以上の記録により、今までまったく記録のなかった北部伊豆諸島でもツバメ類の繁殖が確認されることになったわけであるが、神津島の断片的な観察から、これらの島々でのツバメ類の繁殖はごく最近(1980年代中ごろ)のでき事であり、現在ゆっくりと増加傾向にあることが示唆される。また、コシアカツバメの繁殖は伊豆諸島でははじめての記録であり、今後ツバメとともにどのような経過をたどってゆくのか、注目される。

引用文献

樋口広芳. 1973. 伊豆諸島の鳥類(1) 繁殖陸鳥の分布と生息環境. 鳥 22: 14-24.

1990年10月20日受理

1. 千葉県立中央博物館, 〒280 千葉市青葉町 955-2

Breeding records of the Barn and Red-rumped Swallows,
Hirundo rustica and *H. daurica*, in the Izu Islands

Masami Hasegawa¹

Among the swallows of genus *Hirundo*, the Barn Swallow *H. rustica* was known to breed in the southern three islands of the Izu Islands in early 1970's. Recently, during the visits to the northern Izu Islands (1981-1990), some nests of *H. rustica* was found on Kozushima, Nii-jima and Oh-shima. In the summer of 1990, a nest of the Red-rumped Swallow *H. daurica* was observed on Kozu-shima. This is the first breeding record of *H. daurica* in the Izu Islands.

1. Natural History Museum and Institute, 955-2 Aoba-cho, Chiba 280, Japan